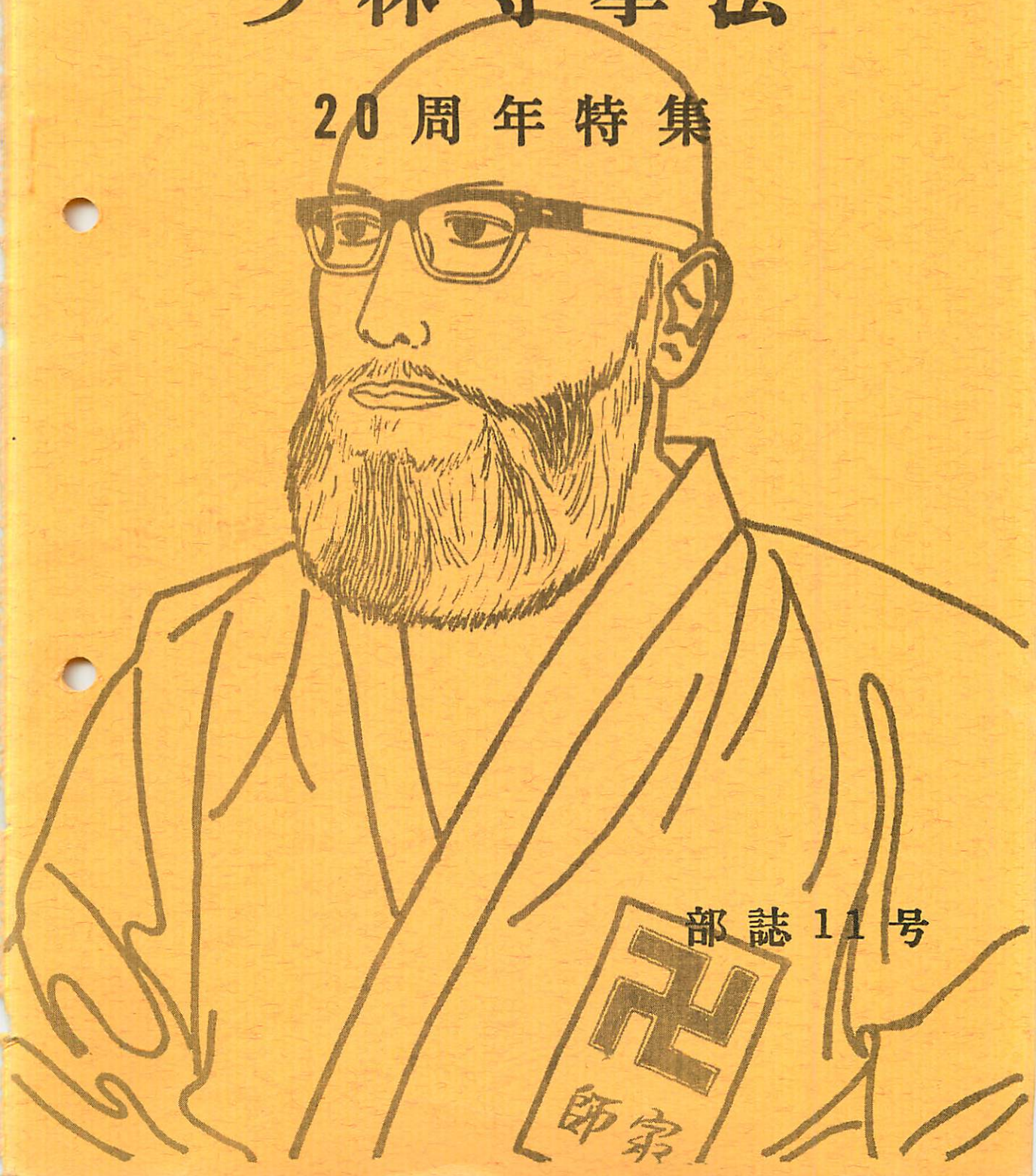


防衛大学校

少林寺拳法

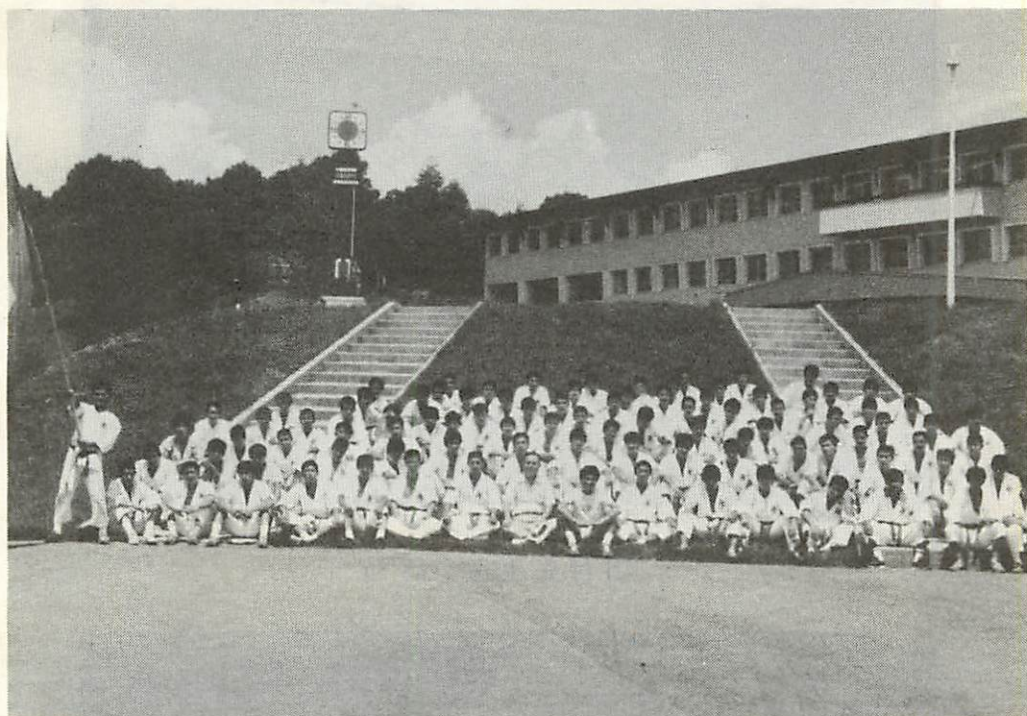
20周年特集



部誌 11号

師宗

立 師 範 大 学 平 野 野 会 員 会



少林寺拳法部一同
(59年度夏合宿)

少林寺拳法部

創立 20 周年 祝 賀 会



田村先生あいさつ



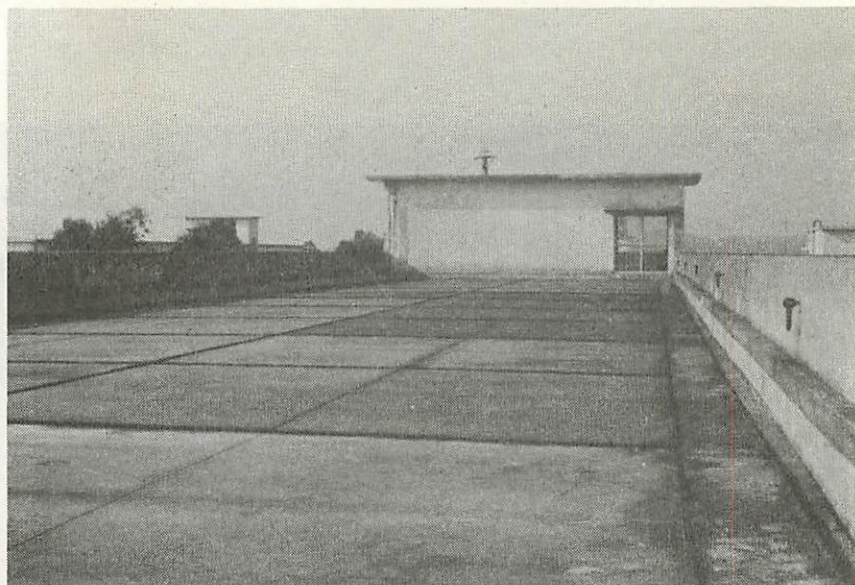
先輩OBの面々



先輩OBの面々



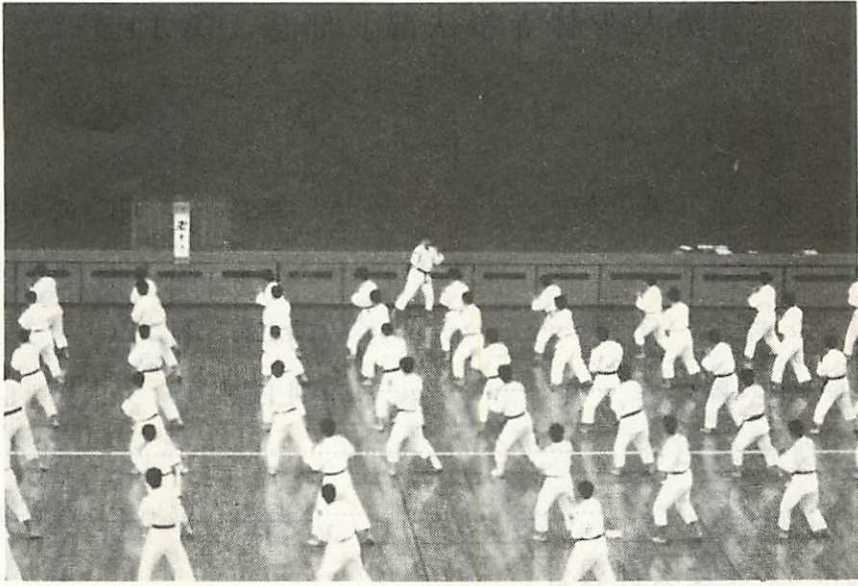
（右一）演武紹介 藤原洋



旧道場（人文館屋上）



新道場（総合体育館アリーナ）



新道場における練習風景



昭和59年度全日本学生大会—三人掛け組演武
(坂井・立林・大川組…最優秀賞)

「防大少林寺拳法部」部誌 第11号

目 次

巻頭の辞	部長 丸川武志	7
監督あいさつ	監督 黒澤豊彦	8
新主将抱負	30期主将 福田洋司	9
政権交代に際して	29期主将 坂井辰也	10
30期幹部紹介		11
新道場について	監督 黒澤豊彦	12
昭和59年度会計報告		13
〔創立20周年記念特集〕		
奥平会会長あいさつ	奥平正人	15
20年を振り返って	田村倉蔵	16
部創立20周年祝賀会実施報告	大会実行委員長 黒澤豊彦	17
20年の活動成績		18
編集後記		19



巻頭の辞

二十周年を迎えて

部長 丸川 武志

合掌

新年おめでとうございます。今年も良き年でありますよう、OB、部員並びに部関係各位の御健勝をお祈り致します。

昭和五十九年は二十九期・四学年生が部の運営を担当し、各種大会においてまたまた輝かしい成果を挙げることができ、誠に御同慶の至りです。前号において、わが防大少林寺拳法部の絶頂期を痛感したところですが、これを例えるなら、一頂を極めた後、ヒマラヤの次なる高峰を目ざして急坂を登り続けて行く勇姿を見る思いがします。この一年間、二十九期生をリーダーとした三学年以下の全部員を合わせて、その活躍ぶりに満腔の拍手を送るものです。

旧年六月、十期生をはじめとする部の創設二十周年記念行事を催しました。当日は遠路にもかかわらず創始者奥平先生、第一番目に就任された松木元顧問が御出席下され、さらに田村先生、神田先生の両師範の外、来賓多数、また約四十名のOBと約百二十名の部員が学生会館の大ホールも狭しとばかりに集いました。その盛況の中で、今日のわが部の発展ぶりに対して想ったことの一つは、いまや防大クラブの中心的な地位を確立するに至っていること。二つは部活の一致団結が特にすぐれていること。三つは三学年以上の部員はすべて選手要員として実力を備えるに至っていること等々……でありました。

年が明ければ昭和六十年、三十期生による運営・指導も快調のすべり出しを見せているようです。今年も部関係者共々全員で励んで行きましょう。

部の発展とOB諸兄の御活躍を祈りつつ。

昭和六十年一月

結手

監督挨拶

黒澤豊彦

合掌

新年明けましておめでとうございます。

全国津々浦々にて勤務のOBの皆様には、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

我が少林寺拳法部は昨年創部二十周年を迎えました。この二十年を一つの節目としますと我が部にとって本年はまさに新たなる飛躍の出発点と言えましょう。

さて、五十九年度は二十九期生指導のもとお蔭をもちまして全日本及び全国大会にて、最優秀の成績を収めることができました。これも偏に幾多の先輩の築き上げられました伝統のなせる技かと思えます。なぜなら、伝統にはある面においては現役の部員をして「自分達も先輩の後に続くんだ。あの輝かしい成績に伍して劣らぬ成績を収めるんだ。そのためには最大限の努力も惜しまないぞ。」という心境に至らしめる作用があると考えからであります。メジャー、マイナーを問わず、どんなスポーツ、武道にしても日本一を獲得することは決して生半可なことではありません。ましてや団体演武の連続七年目ともなれば、その練習の厳しさたるや大変なものでした。そうして勝ち得た最優秀賞なかならず、そのために尽くした努力は本人達にとって必ずや将来の肥やしになったと同時にこれがまた校友会活動の目的でもあるはずで。

次に現在防大校友会には運動部系と称するクラブが同好会を含めて三十八部あります。我が少林寺拳法部はその中において最大の部員数117名を有し成績も日本一とまさに名実共に校友会を代表し、その士気高揚に貢献しているクラブの一つであると自負しております。かかる状況において二十年の伝統をもつに至った我が少林寺拳法部の今後のあるべき姿としては、ただ単に活動を自分の部の範囲内に留めることなく、校友会全体を牽引する存在になるべきであろうと思いますし、また、その時期に来ていると考えます。六十年代も福田主将核心とする三十期生指導のもと大いに活躍してくれることを確信しております。

OBの皆様には今後とも御声援の程よろしくお願い致します。 結手

新 主 将 抱 負

30期主将 福 田 洋 司

合掌

この度、防大少林寺拳法部主将に就きました福田学生です。全日本学生大会及び全国大会に於きましては、第29期諸先輩方々の御指導及び部長、監督、顧問、OBの方々、全校学生の温かい御支援、御協力のおかげをもちまして七連覇を成し遂げることができました。この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

さて、我が少林寺拳法部は諸先輩方々の絶え間ない努力とすばらしき伝統により、名実ともに日本一と発展してまいりました。現在、全部員が日本一の拳士であるという誇りと自覚を持ち、なお一層の飛躍をしようと全身全霊、日々修行に励んでいます。

私は主将として「活気」を目標に掲げます。少林寺拳法は自己確立の修業であり、強い人間、優しい人間こそ開祖が少林寺拳法に託されたことです。そのために、我が少林寺拳法は、常に活気あることが第一であると思います。「活気ある少林寺拳法部」こそ私の追い求めるものであります。しかしながら私の修行不足の故、目標達成は遠き道ではありますが、30期全員が一致団結して目標達成のため全知全霊を尽くしていく覚悟であります。そして、全部員が防大少林寺拳法部の拳士として、青春の熱き血潮を燃やし、防大学生の全国拳士の模範であるという心の拠り所を築きたいと思えます。

部員一同、日々研鑽、努力して日本一という名に恥じぬ立派な少林寺拳法部を築き上げてゆきますので、今後とも良き御理解と御支援の程よろしくお願い致します。

結手



政 権 交 代 に 際 し て

29期主将 坂 井 辰 也

合掌

ちょうど一年前、28期先輩より政権を譲り受けそして早一年が過ぎてしまいました。顧みるに、今年は何林寺拳法部創立20周年にあたり、部の大きな節目であり、29期一同その思うところは大きなものがあつたようであります。一昨年の道場落成に続いてのことであり、一同熱き思いを胸に抱いてクラブ運営に臨んだつもりでありましたが、果たして後輩諸君に何かを伝え残すことができるかどうか、いささか不安でありました。

しかし、私は、政権交代時の後輩の一人一人に、我々が期待したその顔を見ることができ、29期一人一人が何かを残したという確信を持つことができました。

そして、この一年間無事にやってこれたことに29期一同、心から喜びを感じるとともに、部長はじめ、監督、顧問、OBの方々から賜わつた数々の御支援に対し深く感謝の意を表するものであります。

政権を交代した現在、30期諸君を中心として新たに活動が行われているわけですが、一つ言っておきたいことは、今の気持ちを忘れず最後まで30期諸君一同一致団結して、自己のみならず部員全員の向上及び部の発展のために励んで欲しいということです。一人一人が自分がやらなければという気持ちで頑張っていたきたい。

31期の諸君に言いたいことは、これから一年間がむしゃらに技の研究、向上に励んでもらいたいということです。本当に、これからの一年間は一生に一度しかない貴重な期間です。後悔先に立たず！しっかり頑張るように。

32期の諸君に対しては、謙虚に、そして地道に努力せよということです。君らは漸くうぶ毛がとれて歩けるようになったひな鳥のようなもので、まだまだこれからです。一生懸命にやって、そして強くやさしくなつて欲しい。

それから、29期諸君へ。この一年間、よくぞ私のもとに頑張ってくれました。大変ご苦労でした。君らのお蔭で私もこれまでやって来れたと思います。特に合宿時の君らのバックアップは、非常に頼もしいものであります。この場を借りて深く感謝します。

最後に部長はじめ、諸先輩の方々、色々ありがとうございました。

結手

30 期 幹 部 紹 介



(30 期 一 同)

主 将	福田 洋司	准拳士係	亀山 淳	主 務	管野 俊夫
副 将	吉田 憲司		林 宏幸		土屋 甲吉
	池永 博和	少拳士係	黒田 健一	庶 務	百崎 邦彦
統制長	湯浅 秀樹		魚住 晴康		中井 馨
訓練係	西 良典	大隊責任者		会 計	山口 芳正
	鈴木 達雄	1 Bn	栗田 尚幸		笠島 広文
	時久 寛司	2 Bn	魚躬 浩靖	安全係	矢納 裕二
一年係	宮本 善弘	3 Bn	中川 洋行		般津 達男
	岩熊 真司	4 Bn	中森 雅美	師範係	本田 猛
	中村 大助	渉 外	後藤 豊	道場長	西本 彰雄
				O B 係	高橋 親敏

新 道 場 に つ い て

監督 黒澤豊彦

昭和58年2月、防衛大学校に総工事費20億円をかけた総合体育館が完成しました。これに伴ない我が少林寺拳法部は念願の全天候性道場を持つことができました。顧みますと昭和51年、私が21期主将当時、道場建設について丸川部長から次のような、お話がありました。「いくら学校に道場の現状を訴えても一向につくってくれそうもないので、部独自でプレハブ道場でもいいからつくりましょう。場所は私が適当なところを借用できるよう努力します。」そこで先立つものが需要ですので、当時顧問の佐々木(16期)・中尾(17期)の両先輩の御尽力で、やや曖昧だったOB会終身会費を徹底的に徴収し、それをもって資金源とすることになりました。ここに本格的な終身会費制がスタートしたのであります。会費は20期以前は一律五千元、21期以降は卒業時の学生手当の半分(当時二万円)を納めることになりました。全国各地の多くのOBの方々から早速、会費が送金され52年3月には約52万円、さらに55年3月には、なんとその額約170万円にも達しました。

ところが昭和55年12月、防衛大学校の念願でありました総合体育館新設の総経費が大蔵省に承認され少林寺拳法部の道場もその中でできるということとなり、部独自による以前に立派な新道場を持てる運びとなりました。その後の終身会費の用途は、主として全日本大会等の対外試合をはじめ現役部員の活動の支援金として、あるいは部誌発行、記念行事等の経費にしております。

さて、我が部の道場の変遷はと申しますと、昭和40年5月、少林寺拳法会を発足させた当時は旧四大隊学生舎(現四号学生舎)屋上を道場としました。次いで同年冬から人文館屋上に道場を移し、さらに昭和55年からの六号学生舎屋上を経て昭和58年2月、現在の総合体育館の新道場となりました。あの水虫道場と言われた人文館屋上も今はコンクリートの隙間から草が生え当時の面影を残していると言えるのはサンドバックをぶら下げる鉄骨ぐらいで、ここを道場とした一人としてちょっぴり寂しい気持です。雨降れば廊下に降り、また各教室の机と椅子を寄せそこにマットを敷いて、投げ技の練習をした人文館道場。さらには屋上しかなかった六号学生舎時代、それと現在を比較すれば本当に今は恵まれていると言えます。とかく環境が恵まれ過ぎると逆に成績は低下すると言われますが、我が部は組演武二年連続全日本一の快挙に見られますように恵まれた分だけ比例してその成績を向上させております。今後は、このすばらしい道場で部一同益々修業に励む覚悟でおります。

御来校の折は是非総合体育館の新道場へお立寄り下さい。

(昭和 59 年度 (58. 11. 1~59. 11. 10)会計報告)

年月日	摘 要	収入金額	支払金額	差引残高
58. 11. 1	繰越金			1,066,812
"	OB会終身会費 (# 17 沢)	5,000		1,071,812
11. 21	全国大会支援		60,000	1,011,812
11. 24	OB会終身会費 (# 21 鍋島)	20,000		1,031,812
	上期利息	21,282		1,053,094
11. 25	58 年度OB総会		36,000	1,017,094
59. 1. 17	部誌代金		80,000	937,094
	" (学生分)	23,600		960,694
1. 21	連盟新年会参加		12,500	948,194
1. 28	58 年度優勝祝賀会支援		50,490	897,704
2. 13	#28 卒業記念品購入支援		50,000	847,704
3. 13	#28OB会終身会費 (29 名分)	812,000		1,659,704
"	春合宿支援 (校内・本部)		70,000	1,589,704
3. 18	転出者記念品代		4,800	1,584,904
4. 26	顧問会支援		2,900	1,582,004
4. 29	地区役員講習会費 (2 名)		6,000	1,576,004
	前期利息	16,713		1,592,717
5. 25	OB会終身会費 (#18 白数)	5,000		1,597,717
6. 13	20 周年記念祝賀会		516,770	1,080,947
6. 14	夏期合宿支援 (乗鞍・本部)		192,000	888,947
6. 18	OB終身会費 (#17 廣瀬)	5,000		893,947
6. 23	奥平先生旅費追加 (20 周年)		20,000	873,947
9. 12	転出者記念品代		5,000	868,947
9. 15	関東大会支援		34,000	834,947
10. 1	上期利息	17,923		852,870

926518 1140460

年月日	摘 要	収入金額	支払金額	差引残高
59. 10. 14	全日本大会支援		73,000	779,870
11. 2	全国大会支援		60,000	719,870
"	自衛隊大会支援		41,500	678,370
11. 10	59年度OB総会		63,950	614,420
	計	926,518	1,378,910	614,420

※付 記

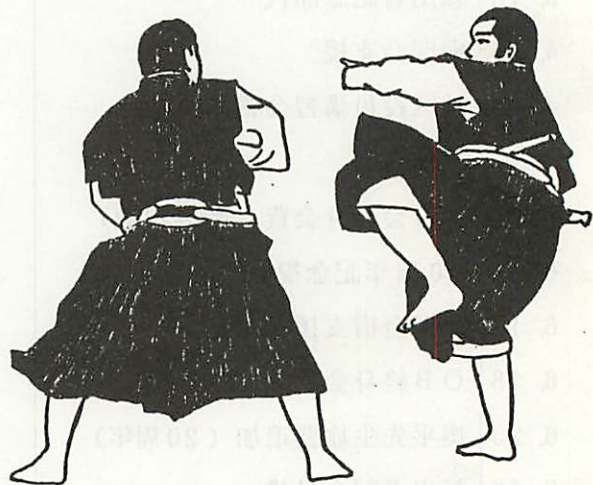
OB会費の支出方針について

1 OB会費徴収の目的

頭初は道場設立にあったが、総合体育館内の新道場の獲得に伴い、今後は部の活動、運営に対し各期OB会徴収総額の約半分を還元する。

2 細 部

- (1) 合宿支援
- (2) 大会参加支援
- (3) 部誌等の制作費
- (4) 校内各行事等
- (5) その他



創立20周年記念特集

嶺立50周年誌念集

< 創立 20 周年記念特集 >

奥平会名誉会長あいさつ

奥平 正 人

あけましておめでとうございます。

よい新年を迎えられ、決意も新たにご精進のこととお慶び申し上げます。

承りますれば、先年も全日本学生大会、全国大会にも最優秀の成績を収められた由、本当に喜ばしい限りです。おめでとうございます。これもひとえに、丸川部長先生、監督、顧問のご指導並びに拳士学生の絶えざるご精進の成果です。

十年一昔というので、二十年は二昔になります。過ぎ去ってみれば全く早いもので防大に勤務したのは昨日のような気がします。私もその後細々ではありますがこの道が続けてまいりました。決して悪かったと思うことはありませんでした。自衛隊の中で、社会に出ても大波小波はありましたが心の支えとなったものはこの少林寺の考え方であったといっても過言ではありません。皆さんにも是非続けてやって下さいと言えるのです。迷わずに、できる範囲で。これは、統率、統禦の心髄であり、処世の根本理念といえましょう。さて、四大隊の指導官として奉職中の当時を思い出しながら、創立時の状況の一端を簡単に述べてみましょう。(3点に絞って)

1. 管長先生の防大生に対する関心。

防大に支部のできたことを一番喜んでくれた人は管長先生でした。今後の日本の運命を左右し、又は大きな影響力を及ぼすことができるのは、防大生、防大出身者だとの認識からです。二度と旧軍時代の過ちをして貰いたくない一心でした。

1. 校友会活動における部活動。

少林寺の部誕生は歓迎されたものではなかった。同類部の活動で、学生が分散して対外的によい成果を収められず防大の評価を落すという主旨から。

1. 先輩の苦労は。

指導者、修練場、各人の負担等現在のような状況ではなかった。学生大会で成果を挙げて、学校当局、学生の認めるまでは大変であったのです。

二十年を振り返りて

田村倉藏

新年あけましておめでとうございます。

奥平四大隊指導官が防衛大学校に一粒の種子を播かれたのが始まりであることは皆様もご承知のことと思います。当時私も防衛庁で少林寺拳法部長をやっていたことと、防衛大学生の採用業務を陸幕募集課において担当しておりました関係もあり、防衛大学校を一番知っているということで師範を引受けたのでありますが、最初十名位の人が四大隊屋上の物干場でやっており、皆さんもコンクリートの上での練習は本当に大変なことであったと思います。それから芝生の上とか、雨の時など教室の中、又は廊下等を利用して現在に至っているのですが、その間、指導して下さった先生は、私の他に高松の水沢先生、加藤先生とが上京されると必ずといってよい位防大に来て下さいました。その後、近い道院の先生を師範にということで横須賀の村野道院長に防大教官が依頼され（奥平指導官が転出後）村野先生は自分には荷が重いということで、本部におられた三崎先生を迎え二年足らず指導いただいたのであったが、たまたま横須賀道院の事件とともに自然に三崎先生、村野先生が去り、その後、元防衛庁長官をなさった衆議院議員の江崎真澄先生と関東の少林寺拳法連盟理事長の内山滋先生とが相談なされて、二度目に又私が指名されて現在に至っている現状ですが、私も一人ではと思い自分の道院で育った神田憲和君とともに指導させていただいております。現在では、全国大学拳法部の中でも、数においても技においてもトップを前進していることは誠に喜ばしい限りでございます。これも偏に部長先生、監督、顧問の教官方の熱意と学校当局のご理解、ご協力の賜と深く感謝申し上げる次第であります。

この修行に参加しておられる学生は、将来自衛隊の志気の高揚と団結力の強化のため必ずやお役に立つことを確信し筆を止めます。

①（部創立 20 周年祝賀会実施報告）

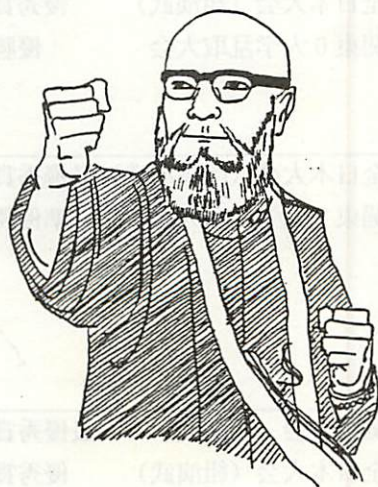
大会実行委員長 黒澤豊彦

昭和 59 年 6 月 2 日（土）学生会館大ホールにおいて防大少林寺拳法部生みの親、奥平正人OB会名誉会長をはじめ田村倉蔵先生その他多数の御来賓の御出席のもと部創立 20 周年祝賀会を盛大に行うことができました。OBも田谷俊之会長をはじめ 40 名の方々の出席をいただき 10 数年振りの再会で大いに昔話に花を咲かせました。最後に今後の少林寺拳法部及びOB会のますますの発展を誓い閉会しました。

なお、20 周年を記念してネクタイピンをつくりました。このタイピンを胸に新たなる気分で勤務にお励みいただければ幸いです。

②（防大少林寺拳法部の歴史）

昭和 40 年 5 月 6 日、当時第四大隊指導教官であった奥平正人二空佐指導のもと四学年 10 期生を中心に 53 名で少林寺拳法会を発足した。以来三年間校友会に属さない愛好会の時期を経て昭和 43 年 5 月 9 日、念願の校友会少林寺拳法同好会となりました。同好会となってからは対外試合も活発化し、その成績は年を追うごとに顕著なものとなり昭和 49 年 2 月 7 日、ついに愛好会発足から九年目にして部昇格を果たし、ここに部員数 113 名の防大少林寺拳法部が誕生したのであります。



③（少林寺拳法部 20 年の活動成績）

年度	活動成績	年度	活動成績
4 3	関東大会（団体乱取） 準優勝 関東新人大会 優勝	5 2	全日本大会（組演武） 優秀賞 （団体演武） 最優秀賞 関東 10 大学乱取大会 優勝
4 4	関東新人大会（団体乱取） 3 位 全日本大会（自由組演武） 5 位	5 3	関東大会 総合優勝 全日本大会（団体演武） 最優秀賞
4 5	関東大会（団体乱取） 準優勝 関東新人大会 優勝 全日本大会（団体乱取） 準々決勝	5 4	関東学生演武会 参加 自衛隊大会 特別賞
4 6	関東大会（個人乱取） 準優勝 "（自由組演武） 準決勝 関東新人大会 優勝 全日本大会（個人乱取） 優勝	5 5	全日本大会（団体演武） 最優秀賞 自衛隊大会 特別賞
4 7	関東大会（団体乱取） 優勝 全日本大会（団体乱取） 準優勝	5 6	関東大会（組演武） 優良賞 全日本大会（団体演武） 優秀賞 全国大会（団体演武） 最優秀賞
4 8	関東大会（自由組演武） 優秀賞	5 7	関東大会（組演武） 優秀賞 全日本大会（組演武） 優秀賞 （団体演武） 最優秀賞 全国大会（組演武） 優秀賞
4 9	関東大会（組演武） 最優秀賞 全日本大会（組演武） 優秀賞 関東 6 大学乱取大会 優勝	5 8	関東大会（組演武） 優秀賞 全日本大会（組演武） 最優秀賞 （団体演武） 最優秀賞 全国大会（組演武） 優良賞 （団体演武） 最優秀賞
5 0	全日本大会（団体演武） 最優秀賞 関東 7 大学乱取大会 準優勝	5 9	関東大会（団体演武） 最優秀賞 全日本大会（組演武） 最優秀賞 （団体演武） 最優秀賞 全国大会（組演武） 敢闘賞 （団体演武） 最優秀賞 全自衛隊大会（組演武） 最優秀賞
5 1	関東大会（組演武） 最優秀賞 全日本大会（組演武） 優秀賞 関東 8 大学乱取大会 優勝		

編 集 後 記

合掌

少林寺拳法部OB各位におきましては、日頃から多くの御協力、御支援並びに御指導いただきましてまことにありがとうございます。

わが防大少林寺拳法部も創立20周年を迎え名実ともに防大の校友会のリーダー格となりました。これもひとえにOB各位の築いてこられた伝統の賜物と信じております。

また今年の活動結果も御承知のとおりすばらしいものとなりました。加えて部誌の発行も今回で11回を数えるまでになりました。

これからも部員一丸のもと力を尽して努力いたしますので、OB各位にも何かとお忙しいこととは思いますが相変らぬ御支援、御高配をお願いいたします。

結手

59年度OB係



